



# 助動詞：義務①



助動詞：義務①：解説

## 1 must

<small>マスト 原形</small> <b>must</b> <動詞> : <動詞>しなければならない。	
He <u>speaks</u> English. <small>※一般動詞の現在形（三人称単数の主語）→語尾にs。</small>	彼は英語を話す。
You <u>speak</u> English. <small>※一般動詞の現在形（その他）。</small>	君は英語を話す。
<small>マスト</small> You <u>must</u> <u>speak</u> English. <small>※助動詞mustの後ろに来る動詞は原形。</small>	肯定文/平叙文：君は英語を話さなければならぬ（義務）。
⇨ Speak English!	⇨ 英語を話せ（命令）！
You <u>must not</u> speak English. <small>マストント</small> You <u>mustn't</u> speak English. <small>※短縮形。</small>	否定文：君は英語を話してはいけない。
⇨ Don't speak English!	⇨ 英語を話すな（禁止命令）！
<u>Must</u> I speak English?  —Yes, you <u>must</u> . —No, you <u>don't have to</u> . <small>※注意：mustは使わない。</small>	疑問文：私は英語を話さなければなりませんか？  —はい（しなければなりません）。 —いいえ（しなくてもよい）。
<b>Must</b> you leave right now? Won't you stay a little longer?	もう行かないといけないの？ もう少しられない？

ある行為を「しなければならない」という義務を表すには、助動詞mustを用いる。

mustはまた相手への**命令**を表すのにも用いられる。

mustを用いたYes/No疑問文に対する**Noの答え**では、mustは用いることができないので注意。例えば「Must I speak English?（私は英語を話さなければならないのですか?）」という問いに対し、「No, you **mustn't**.（君は英語を話してはならない）」と答えるのは誤りになる。Noの答えとしては、「No, you **don't have to**.（君は別に英語を話さなくてもよい）」が正しい答えになる（have toに関しては後述）。

❖ <sup>マスト</sup> must be <名詞/形容詞> : <名詞/形容詞>にならなければならない。	
He <u>is</u> careful.	彼は慎重 <small>しんちよう</small> です。
You <u>must be</u> careful, too.	君も慎重にならなければならない。

mustをbe動詞とともに用いて「must be ~」の形にすると、「~にならなければならない」の意味になる。

We <b>must</b> meet him <b>tomorrow</b> .	我々は、明日、彼に会わなければならない。
If you break the law, you <b>will have to</b> deal with the consequences.	もし法を犯したなら、君はその結果（≒刑罰）に対処しなければならなくなるだろう。

**未来**に「~にならなければならない」行為に関しては、今の時点で既にそれをやるすことが義務付けられているのであれば（未来の時点になってからその義務が生じるのでなければ）、そのままmustを用いることができる（「will have to」などの形を用いなくともよい）。

I told him that I <b>must</b> go <b>yesterday</b> .	私は、私が行かねばならないと、彼に昨日言った。
---	-------------------------

間接話法の従属節内では、**過去**時制であってもmustをそのまま用いることができる。

## 2 have to

◆ <sup>ヘエアフ</sup> <sup>原形</sup> have to <動詞> : <動詞>しなければならない。	
You <sup>ヘエアフ</sup> <b>have to</b> speak English.	肯定文/平叙文：君は英語を話さねばならぬ。
You <b>don't have to</b> speak English.	否定文：君は英語を話さなくていい。
<b>Do I have to</b> speak English?  —Yes, you <b>do</b> . —No, you <b>don't</b> .	疑問文：私は英語を話さなければなりませんか？  —はい（しなければなりません）。 —いいえ（しなくてもいいです）。
He <sup>ヘエラス</sup> <b>has to</b> speak English.	彼は英語を話さねばならぬ。
He <b>doesn't have to</b> <sup>ヘエアフ</sup> speak English.	彼は英語を話さなくていい。
<b>Does he have to</b> speak English?  —Yes, he <b>does</b> . —No, he <b>doesn't</b> .	彼は英語を話さなければなりませんか？  —はい（しなければなりません）。 —いいえ（しなくてもいいです）。

◆ <sup>ヘエアド</sup> <sup>原形</sup> had to <動詞> : <動詞>しなければならなかった（過去形）。	
You <sup>ヘエアド</sup> <b>had to</b> speak English.	肯定文/平叙文：君は英語を話さねばならなかった。
You <b>didn't have to</b> speak English.	否定文：君は英語を話さなくてよかった。
<b>Did I have to</b> speak English?  —Yes, you <b>did</b> . —No, you <b>didn't</b> .	疑問文：私は英語を話さなければなりませんでしたか？  —はい（しなければなりませんでした）。 —いいえ（しなくてもよかったです）。

義務を表すのには、助動詞mustの代わりに**一般動詞**have toを代わりに用いることもできる。have toの三人称単数現在形はhas toになる。なお、このhaveおよびhasの発音は、それぞれ「ヘエアフ」「ヘエラス」になる（濁音の「ヘエアヴ」「ヘエアズ」ではない）。have toの過去形はhad toになる。

have toを用いた文を**否定文**にした場合、これは「～しなくてもいい」という意味になる。「～してはならない」を意味するmustの否定文との違いに注意。

肯定文においてはmustとhave toはほぼ同義だが、①mustは**自分自身の意志**で「～しなければならない」と考えている場合に用い（例：「太って見た目も悪いから、そろそろダイエットしなくっちゃ！」）、②have toは自分がそう思っているかどうかに関わらず**外的要因により**「～しなければならない」ことになっている場合に主に用いる（例：糖尿病になる危険性を医者に指摘されて、食事制限せざるをえない場合）。

なお、会話ではもっぱらhave toが使われることが多く、特に**疑問文ではhave toを用いることが多い**。